



平成31年1月8日(火)
練馬区立開進第四小学校
校長 河崎 晃二

開四小だより

1月号

子供のやる気を引き出す褒め方って…

校長 河崎 晃二

あけましておめでとうございます。ご家族おそろいでよい年をお迎えのことと思います。冬休み期間中の東京の天気は晴れの日が多く、大晦日には夕日を見ながら戌年の1年間を振り返ることができました。また、お正月の3が日も穏やかな日が続き、よいスタートとなりました。

本年も、保護者や地域の皆様方には、昨年同様開進第四小学校の教育活動に深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

*

子供の褒め方にはいろいろありますが、子供のやる気を引き出す褒め方って結構難しいですね。場面によって使い分けることで、子どもの気持ちを効果的に高められます。以前、褒め方によって子供の心に届きやすいかをまとめたものがありましたので一緒に考えてみたいと思います。

「結果」を褒める or 「過程」を褒める

できたことを褒める「結果を褒める」褒め方と、結果にかかわらず、挑戦したことやがんばりを褒める「過程を褒める」褒め方があります。よい結果を褒めると、子どもは誇らしい気持ちになり、自信を高めるはずですし、その効果も高いです。しかし、結果を褒めすぎると、次により結果を出せなかったときに、落ち込み、自信を失ったり、失敗を恐れたりします。一方、努力した様子を褒めると、「もっとがんばろう」という気持ちになります。過程にもしっかりと目を向けることで、次につながりやすくなります。

「絶対的」に褒める or 「相対的」に褒める

「絶対的」に褒めるとは、だれとも比較せずにわが子のよさを認めて褒めることです。一方、「相対的」に褒めるとは、だれかを引き合いに出して褒めることです。

相対的に褒めると、競争心を刺激されるかもしれませんが、「自分は相手より上だ」という気持ちになって、それ以上の努力をしなくなるかもしれません。それに、友達との関係に勝ち負けの視点を持ち込み、人間関係がゆがんでしまうことも考えられます。褒めるときはだれかと比較するのではなく、その子自身のよさをしっかりと認めることが大切になってきます。

「いつも」褒める or 「ときどき」褒める

2歳や3歳のころは小さなことでも褒めて、「自分は何でもできる」「親から愛されている」といった気持ちにさせて、自尊心を高めることも大切でしょう。しかし、ある程度の年齢になっているのにむやみやたらに褒めると、「自分は特別だ」といったゆがんだ万能感につながることも考えられます。成長に伴ってタイミングを見計らって褒める方法へと徐々に切り替えていくことも大切です。

とは言っても、やはり子供のやる気を引き出す褒め方って難しいですね。